

キリスト教保育の実践 ——関西学院幼稚園

関西学院幼稚園主幹保育教諭 赤木 敏之



幼稚園の歴史

本園のルーツは、広島英和女学校（現広島女学院）にさかのぼる。1891年にアメリカ・南メソヂスト監督教会宣教師 N. B. ゲーンズにより広島英和女学校保姆師範科の附属幼稚園として創立され（正式認可を受けての開園は1892年9月）、その後、同師範科がランバス女学院として大阪に移転すると同時にランバス女学院附属幼稚園となった。さらにランバス女学院が聖和女子学院として兵庫県西宮へと移転するのに伴い、附属聖和幼稚園、そして、聖和大学附属聖和幼稚園としての歩みを続け、2009年4月、関西学院との合併により学校法人関西学院聖和幼稚園に、また、2016年4月、関西学院幼稚園と名称変更した。そして、2025年4月より時代のニーズに応じるため「幼保連携型認定こども園関西学院幼稚園」へと移行した。

幼稚園の流れ

養成校の附属幼稚園、一つの学校としての幼稚園、認定こども園としての幼稚園

1887	1896	1921
広島英和女学校	広島女学校	ランバス女学院
1891	1896	1921
広島英和女学校附属幼稚園	広島女学校附属幼稚園	ランバス女学院附属幼稚園

1941	1950	1964	1981
聖和女子学院	聖和女子短期大学	聖和女子大学	聖和大学
聖和女子学院附属幼稚園	附属聖和幼稚園	附属河原町聖和幼稚園	附属北聖和幼稚園
	1955	1961	1974
	附属聖和第二幼稚園	附属岡田山聖和幼稚園	附属南聖和幼稚園

1981	2009		
聖和大学	関西学院		
1987	2009	2016	2025
附属聖和幼稚園	聖和幼稚園	関西学院幼稚園	幼保連携型認定こども園 関西学院幼稚園

教育・保育実践で大切にしてきたこと、していること

創設当初から、聖書における子ども観（一人ひとりの子どもたちは神様に愛されている存在）をもってキリスト教主義による教育・保育を継承してきている。『幼な子をキリストへ』『キリスト教精神に基づいた保育』『キリスト教主義の教育・保育』という理念・精神は、名称、所在地が変わっても一貫している。

建学の理念・精神を実践するために源流として流れていることは、目の前にいる、今を生きている子どもたちにとって、そして未来を生きる子どもたちにとって、「何が大切なのか」「何が必要なのか」を保育者が熟考し、実践してきたことである。広島、ランバス時代を通じて働かれた M. M. クック女史はキリスト教に基盤を置いた子ども中心の保育を重視していた。「その方、祈って、考えて、責任をもつ

て」といつも言われていた。今の時代も大切にキリスト教教育・保育実践していきたい言葉である。

初期の時代の保育は、Kindergarten の創設者フレーベルの考えを踏襲するものであったが、ランバス女学院附属幼稚園の頃から、当時アメリカの幼児教育の主流であった進歩主義教育に基づく自由保育の形態を取り入れた。学びの主体を保育者ではなく子どもにおく児童中心主義、子ども中心主義の考え方であり、現在の教育・保育の根幹をなすものとなった。そして、この流れが現在の教育・保育の原型となっている。

1999年、現在の園舎が竣工された際に、保育者で熟考し園庭を大幅に見直した。現在の子どもたちは生活の中で、虫を捕まえたり、草花、葉などで遊んだりする機会が激減している。起伏のある場所で駆け回って遊ぶ機会もなくなってきている。自然の中で五感を使って遊ぶ経験ができるように、園庭の既成の鉄製の滑り台、ジャングルジム、ブランコなどは撤去し、築山を造り起伏のある環境、そして、樹木、草花を多数植え、保育者考案の木製遊具を設置し、園庭を平らなグラウンドではなく、森のようにしたのである（下記写真）。



幼稚園園庭

本園は、穏やかな雰囲気を出し、園全体が愛されていることを感じられる空間であることを目指している。

時代が変化しても、これからも一人ひとりの子どもたちにあたたかなまなざしを注ぎ、一人ひとりの子どもたちが「愛されている自分」を感じ「喜びをもって」「主体的に」「共に」育つように援助し、キリスト教主義教育・保育を展開していく。

（あかぎ としゆき）